トライアスロン中島大会プロジェクト

映画「グレート　デイズ」を見て感動の涙を流し
2015年【BBC】「イギリスで脳性麻痺の8歳の少年がトライアスロン完走」との情報が・・
感動のフィニッシュを見た時、皆んなと共に挑戦することこそが大事なのだと背中を押され
ヤルと決めたプロジェクトです

トライアスロン中島大会プロジェクトメンバー
【視覚（網膜色素変性症1級）】佐々木一明（62歳）
【ガイド】浅井裕史（55歳）
【フォロー体制】大西孝志（54歳）・真木健司（57歳）・森栄二（47歳）

全盲の鉄人誕生秘話

この物語は、2019年7月28日、視覚に障がいのある佐々木一明さんが、モンチッチ海岸でのイベント会場で、トライアスロン中島大会への挑戦を宣言したことから始まりました。

浅井さんと二人三脚で頑張る

2020年1月19日には、中島トライアスロン実行委員会の方々に参加したい旨お伝えしながら、受け入れに向けての話し合いの場を持ちました。 7月5日には、開催場所を体感するために、中島での初練習会開催。 8月23日には、大会がコロナで中止になる中「なかじマニアmeeting」を実行委員会が開催してくださり参加。完走できるという流れを掴むことができました。

その後コロナで開催ができない中で、「コロナを言い訳にしない自己調整を心がける」と佐々木さんが宣言して、浅井さんのガイド役と二人三脚で頑張ってきました。

やっと扉が開かれる

2023年2月19日　徳島県阿南市にて強化合宿

8月27日中島トライアスロン開催の嬉しい情報が入ってきたので、泳ぎを省いた合宿で気合を入れることに。天気予報が雨という中、又々有難いことに練習を終えるまではお天道様が見守ってくれました。当初「日和佐トライアスロン」のコースを走る予定でしたが強風注意報が出ている状況だったので、発電所巡りができるコースへと変更。浅井さんと佐々木さんがコロナ禍でも練習に手を抜くことなく頑張ってきた成果が確認できて、完走できる確信が持てました。

2023・08・11　夢永海水浴場スイム強化練習

トライアスロン中島大会に向けての特訓を、保内町の夢永海水浴場を拠点に開催。スイムの時の過酷な蹴りや、ぶつかり合ってもパニックにならないようにと、ベテラントライアスロン選手の提案によるものです。当日フォロー体制のポジション決めなども話しながらの練習会。台風情報が気になり、初めて天気で悩みましたが予定通り開催。スイムと昼食の間はバッチリだったのですが、バイクで走行中に【線状降水帯】とは、こんな状態のことなのか?と驚くほどの雨に降られ心配したのですが、滅多にできない体験だからと参加者全員が力強く走り抜く姿に惚れ惚れ！

たまたま事務所に寄った時、練習会の情報を聞いた一色さんが、おにぎり弁当を作ってくださったりと、又々人間力に励まされるという1日になりました。感謝です！！

今回練習を終えた時に、森さんが「目をつむって泳いでみたけど怖かった。よく真っすぐ泳げますね！」と佐々木さんに言われた言葉が印象的でした。

トライアスロンプロジェクトのあゆみ

2019.07.28	モンチッチ海岸でトライアスロン中島大会挑戦宣言
2019.12.29	浅井さんとの練習開始（MY タンデム購入）
2020.01.19	中島トライアスロン実行委員会との話し合い
2020.07.05	トライアスロンプロジェウト 中島初練習会
2020.08.23	なかじマニアmeeting参加　完走
2023.02.19	徳島県阿南市にて強化合宿
2023.08.11	夢永海水浴場スイム強化練習
2023.08.27	第35回トライアスロン中島大会【3時間36分23秒　201位】

嬉しいニュース

1986年から始めた「トライアスロン中島大会」。愛媛県内で初めて「第11回スポーツ振興賞」を受賞しました。そんな喜ぶべき年に、視覚障がい者のタンデム自転車での挑戦の扉を開けてくださったことに、重ねて感謝です！！

心が震える先には　金色の道がある　第1弾

【合言葉】できるかどうかは、本人が判断すべき！
周りが線を引かないこと。習うより慣れろ

網膜色素変性症で失われた視力

自分の視力が悪いことに気づいたのは、小学校に入るときの身体検査で視力を測ったときでした。
眼科に行き詳しく検査した結果、【網膜色素変性症】と診断されました。
右0.3・左0.03、それと視野狭窄と夜盲症だとわかりました。

佐々木 一明 さん

視野狭窄とは

晴眼者の人には視野狭窄が理解しにくいのではと思いますが、メガホンを逆さまにして覗き込んだ状態です。視野狭窄での失敗は人にぶつかる・下りの階段に気づかずにこける・足元の物を蹴るなどです。一番理解してもらえにくかったことは、小学生の時ソフトボールの練習中に周りに人がいないと思いバットを振ったら、友達をたたいてびっくりするということがありました。夜盲症については、みんな夜になったら見えなくなるのだと思っていました。遠視が強かったため、文字を見るとき虫眼鏡を使っていたのですが、それが恥ずかしくて隠しながら使っていたつもりが、友達にはバレていました。

盲学校へ転校

中学に入ると、教科書の字が小さくなり、色々と不便を感じるようになり、2年生で盲学校に転校することにしました。盲学校では堂々と虫眼鏡を使うことができたので、楽でした。

入学して気づいたのですが、全盲の人が多いと思っていたら、弱視の人が多いのには驚きました。もともと体を動かすことが好きだったので、視覚障がい者のソフトボール（グランドソフトボール）を中心に、色々なことを体験できたので、盲学校に来て良かったと思いました。

点字と起業

20歳くらいから視力が下がり始め、はり、灸、マッサージの勉強をしている頃から、点字を使うようになりました。21歳で盲学校を卒業し、はり、灸、マッサージの免許を取り、「佐々木鍼灸院」を開業しました。30歳を過ぎて、一人で歩くことが難しくなったのですが、このころは、白杖をつくことが「カッコ悪い」と思い、恥ずかしくてたまりませんでした。

40歳代までは、仕事と子育てを一生懸命頑張り、50歳代になってスイムを始めると同時にNONちゃん倶楽部に出会いました

競輪場から始まる夢

2014年6月の「サイクルチャレンジ2014in競輪場」に参加したのが始まりです

タンデム自転車の魅力を知ってから、NONちゃん倶楽部のイベントを心待ちにしていました。2016年4月2日久島大橋開通記念サイクリングに参加した時、パイロットをしてくださったのが伊予銀行の大西さんでした。体つきがスポーツをしている方だと感じ、何をしているのか尋ねると、久島を一周する間トライアスロンのことを色々と話してくれました。今思い返せば、この時からトライアスロンへの夢を持つようになった気がします。

声に出すとなんとかなる

NONちゃん倶楽部で海のイベントや、四万十サイクリングなども楽しむ中で、2019年2月には台湾サイクリングの誘いを受けて、初めての海外旅行にもチャレンジしました。不安があっても、やってみると想像以上の感動を味わえると思い、意を決して7月28日モンチッチ海岸のイベントで「中島トライアスロンに参加したい！」と宣言したのです。

目が見えなくてもやりたいことがあれば、声に出して発信すればなんとかなるかな?の精神で生きてきました。

台湾スタッフの電動MTBを跨ぐ▶